

2023年度 第四回技術委員会 (合同委員会)

2024年2月13日 (火)

Web開催



主な内容

1. 2023年度技術委員会メンバー
2. 申請状況について
3. WG活動報告
4. その他

技術委員会メンバー

登録会社62社104+α名

株式会社オクト

光明理化学工業株式会社

株式会社JCVケンウッド

新コスモス電機株式会社

株式会社タニタ

中央自動車工業株式会社

東海電子株式会社

株式会社東洋マーク製作所

ドレーゲルジャパン株式会社

NISSHAエフアイエス株式会社

根本特殊化学 株式会社

株式会社パーマンコーポレーション

株式会社パイ・アール

フィガロ技研株式会社

前野技研工業株式会社

株式会社ヤナコ計測

アイグッツ株式会社

あすまる株式会社

エスケイジャパン株式会社(議事録担当)

MIクリエイションズ株式会社(次回:議事録担当)

NCY株式会社

株式会社エフェクト

株式会社オウルテック

株式会社オクト

株式会社オムニ

株式会社キングジム

株式会社グロックス

株式会社コムテック

株式会社コンテック

SANKEIプランニング株式会社

鈴与シンワート株式会社

SEIKOIST株式会社

センスエアエービー

(旭化成エレクトロニクス株式会社)

大自工業株式会社

株式会社天時情報システム

株式会社東京企画

株式会社東計電算

株式会社ドウシシャ

トライポッドワークス株式会社

株式会社ドリテック

日本鋭明技術株式会社

株式会社藤田電機製作所

株式会社ユアーショップ

株式会社ユビテック

株式会社ライノプロダクツ

株式会社レッツ・コーポレーション

新東工業株式会社

株式会社SREE

小林薬品株式会社

有限会社ドリームチーム

株式会社イズムシステムインテグレータ

TML株式会社

NHPソリューション株式会社

株式会社セイワ

株式会社ミツバサンコーワ

株式会社SGST

株式会社ファーストシステム

株式会社カスタム

アイリスオーヤマ株式会社

株式会社高昇

エレコム株式会社

Dahua Technology Japan 合同会社

今期の取り組みについて

- 外部検定の運用対応
- JB20規格運用に向けた対応
- 義歯安定剤連絡会との対応
(ペンディング)
- アルコールガスのトレーサビリティ調査
(ドライーウェットガスの相関関係等)

2021年度～2023年度の活動計画

項目	活動内容	2020年度				2021年度				2022年度				2023年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q												
①自主検定	自主検定合格品 有効期限																
②外部検定	JB1000X検定運用																
	JB1000X維持審査																
③規格WG活動	JB20001規格策定																
	ISO/TC272対応									⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
	CERIとの運用協議																
	CERIの設備整備																
	プレテスト																
	JB20001検定運用										⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
④ガスWG活動	Dry-WetGas関連評価 /評価機関調査等									⊗	⊗	⊗					
	Wet試料液検討評価 (ReCCS)									⊗	⊗	⊗				⊗	
⑤義歯安定剤WG活動	義歯安定剤連絡会 対応									⊗	⊗	⊗	⊗	⊗		⊗	⊗
⑥その他技術的対応	J-BACのHP等からの 技術的相談対応																

■ 作業完了 ■ 作業予定
⊗ 作業追加 ⊗ 未実施

2023年度活動スケジュール

2023年度技術委員会開催予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術委員会	●4/14 第八回定期総会 (Web開催) 第一回			●7月5日 (Web開催) 第二回			●10月4日 (ハイブリッド開催) 第三回				●2月13日 (Web開催) 第四回	

●規格WG

4/26 第一回
5/18 CERI打合せ
6/2 CERI打合せ
6/19 第二回
7/21 第三回
10/30 CERI訪問打合せ

12/13 第四回

●ガスWG

1/11 産総研打合せ
次回開催検討中

●義歯安定剤WG

7/21 第一回
9/4 義歯安定剤連絡会との
Web打合せ以降ペンディング

2023年度外部検定運用

2022年7月1日より新方式での検定運用開始

変更内容: 検定審査会での書類審査を外部機関(CERI様)へ移行

2023年7月以降の申請状況

7月～9月: 新規 7

維持 3

新⑨～⑪班

特班: 同一 2 OEM 1

10月以降の申請状況

10月: 新規 0 維持 1

11月: 新規 3 維持 5

12月: 新規 0 維持 3

1月: 新規 2 維持 2

新班 ⑫～⑭班 特別審査班

2周目に入っておりますが、今後とも検定審査会(班)の
対応宜しくお願いいたします。

検定審査会グループ

登録会社47社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

①新コスモス電機株式会社(リーダー)

①アイグッツ株式会社

①株式会社アサヒ企画

①あすまる株式会社

②ドレーゲルジャパン株式会社(リーダー)

②MIクリエーションズ株式会社

②エスケイジャパン株式会社

②NCY株式会社

③株式会社パイ・アール(リーダー)

③株式会社エフェクト

③株式会社オウルテック

③株式会社オムニ

④株式会社タニタ(リーダー)

④株式会社キングジム

④株式会社グロックス

④株式会社コムテック

⑤フィガロ技研株式会社(リーダー)

⑤株式会社コンテック

⑤SANKEIプランニング株式会社

⑤株式会社サンクラウド

⑥中央自動車工業株式会社(リーダー)

⑥鈴与シンワート株式会社

⑥SEIKOIST株式会社

⑥センスエアエービー

(旭化成エレクトロニクス株式会社)

検定審査会グループ

登録会社44社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

⑦前野技研工業株式会社(リーダー)

⑦大自工業株式会社

⑦株式会社天時情報システム

⑦株式会社東京企画

⑧株式会社パーマンコーポレーション(リーダー)

⑧株式会社東計電算

⑧株式会社ドウシシャ

⑨東海電子株式会社(リーダー)

⑨トライポッドワークス株式会社

⑨株式会社ドリテック

⑩株式会社東洋マーク製作所(リーダー)

⑩日本鋭明技術株式会社

⑩株式会社藤田電機製作所

⑪株式会社JVCケンウッド(リーダー)

⑪株式会社ユアーショップ

⑪株式会社ユビテック

⑫株式会社オクト(リーダー)

⑫株式会社ライノプロダクツ

⑫株式会社レッツ・コーポレーション

**OEM申請、同一機種申請、仕様変更届対応
特別検定審査班**

○光明理化学工業株式会社

○NISSHAエフアイエス株式会社

○根本特殊化学 株式会社

○株式会社ヤナコ計測

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・最終出荷場所について

最終出荷場所が複数箇所ある場合は様式2. の1. 当該機器の製造の【最終試験(出荷)場所】に全て記載し、その関連性を明記する。なお、必ず住所を記載願います。

この明記事項により【最終試験(出荷)場所】が複数ありとなった場合はすべての場所がサイト監査の対象となる。

- ・取扱説明書について

新規申請: 外部機関の書類審査時に指摘を受け修正を行った場合、現地(サイト)監査までに改版する。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・各申請、監査、試験の不合格後に関して

現在、上記不合格(もしくは指摘事項有り)になった後、外部機関様へ長期間連絡がない企業様が数社おられます。

長期連絡がない状態が続きますと、協会側の台帳と外部機関様の進捗管理が合致しないなどのケースが生じ始めております。

「連絡が2ヶ月ない場合は、中断通知とともに一旦審査等を取り下げ処理し、再開する際には技術委員長まで再開の申請を行う」

上記の件例がありました。2月に最終リマインドを会員企業様に行いました。

引き続き、**最低1回/月**に外部機関様(三浦CC)へ連絡すること。

今後はリマインドなく、審査などの中断の連絡を入れます。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・様式2. ○呼気アルコール検知器 販売ガイドラインに関する規定 No.10 測定範囲(0.000の定義、マスキング範囲)について説明しているか。

本項目に関して、取り扱い説明書に明確に記載されておらず、外部機関様の書類審査合格後、現地(サイト)監査時、もしくは実機試験時に発覚する事例が起きております。

前回の委員会時に報告いたしました。9月以降は、

即座に監査、試験中止とし、書類審査不合格の処理とし、再審査をご希望される場合は、書類審査からの対応になります。

申請方法の確認・変更について

審査費用改定に関して、

2023年3月に外部機関であるCERI様より審査・監査・試験費用の改定の連絡がありました。

理由等に正当性が見られましたので、本件を受け入れることが幹事会にて決定し、**1月より価格改定となっております。**

【改定内容】 改定時期 **2024年1月** 申請分より

・料金変更前

1年目	初回審査	27.5万円
2年目	維持審査(現地)	11万円
3年目	維持審査(現地)	11万円
4年目	維持審査(現地)	11万円
5年目	更新審査(現地)	11万円

・料金変更後

1年目	初回審査	34.5万円
2年目	維持審査(現地)	11.5万円
3年目	維持審査(現地)	11.5万円
4年目	維持審査(現地)	11.5万円
5年目	維持審査(現地)	11.5万円

申請方法の確認・変更について

更新審査に関して、

来年度より、更新審査が始まります。

更新審査は基本新規審査と同様の手順となります。

費用に関しても新規審査と同額になります。

更新審査を行わない場合はJBマークの使用権原を失います。

JBマークの使用権原失効は、更新期限から半年とします。

審査に3～5カ月かかることが予想されますので早めの申請をお願いいたします。

「検定制度」および「外部検定 (JB10003) の申請から認証までの流れ」を参考に対応願います。

申請方法の確認・変更について

外部機関（CERI）様の対応に関して
申請に対して外部機関（CERI）様より下記ご意見、依頼をいただいております。

- 最新版でない取扱説明書が提出され、事前書類審査を開始していた場合には事前書類審査不合格とする（工数が発生しているため、事情は考慮しない）。
試験再開を希望の場合には再度CERI様への試験（審査）の申込となる。
- 前回審査で次回審査までの対応となった宿題（取説の修正や品質書類の修正等）には申し込み時にその対応の内容について申告すること。

申請方法の確認・変更について

- ・維持審査で前回とは全く同じ対応とはならないことは当然のこと認識願います。

適合性評価において、業界団体規格は、ほぼ完成されたISOやJISとは異なり、スキームオーナー（J-BAC）を中心に、CERI、会員企業で運用・協力をしながらスキームを成長させていくものと考えております。そのため、審査とその次の審査の間の期間にあった世の中の変化等から、スキームオーナーが必要と判断する等あれば審査のあり方は変化（当然ながら大前提として、あくまでJ-BAC規格文書の範囲内で）はあって当然である。（この辺がISOやJISとは異なる）。会員企業様においてもそのような認識を持っていただきたいと考えております。

規格WGについて

○ JB10整備、英文化およびJB20, JIS等対応

参加表明メンバー

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様

光明: 畑様(リーダー)

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様、植松様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

根本特殊化学: 三浦

フィガロ技研: 河口様

ヤナコ計測: 上西様

規格WGについて

2023年度第三回技術委員会にて 今後について

- JB20001
 - ・2023年度夏運用開始 → 2024年4月前には運用開始へ
 - ・JB10更新審査、維持審査との重なりを避けるため
(但し、5月・11月は業務多忙により不可)・・・12月or1月？を目標
 - ・CERI様からの最終見積入手
 - ・懸案事項解消
 - 終了後解散へ。以下は別途WG立ち上げ対応

○JB10001

- ・ NDIR仕様に対する規格対応

○ISO化

- ・ 他機関の調査検討

規格WGについて

○JB20について

前回(10月4日第三回技術委員会)にて、下記3点をCERI様に問合せ中と報告

1. 温度試験トライアルによる、基準器の温度によるゼロ点測定

(温度試験時における指示差の検証)

2. 干渉ガス試験について、エタノール0.15mg/Lが存在する中で、各干渉ガスを通気する試験ができるか(特に水に溶けるアセトンの件)。

3. イミュニティー試験について、CERI様が依頼する試験機関で、同試験中の連続動画撮影は可能か。

→ 可能

○既に試験をパスしている場合→合格証により本規格は合格

○これから取得する場合→ガス試験 : CERI様

電氣的妨害試験: JQA様or沖エンジニアリング様

その際、CERI様に全てお願いするか、ガス試験のみかは選択可。

・10月30日 基準器提供のヤナコ計測様中心に、CERI様訪問

CERI : 秋間様、中島様、福富様、西野様

J-BAC: 上西様、河口様、畑、三浦様(Web参加)

規格WGについて

JB20について(続き)

1. 温度試験トライアルによる、基準器の温度によるゼロ点測定

- CERI様条件をフィガロ様に提供し、フィガロ様提案の配管ヒーティング提案を検証(配管の結露影響対策として)
- フィガロ条件の設備をJ-BACにて購入
- CERIにて再現確認

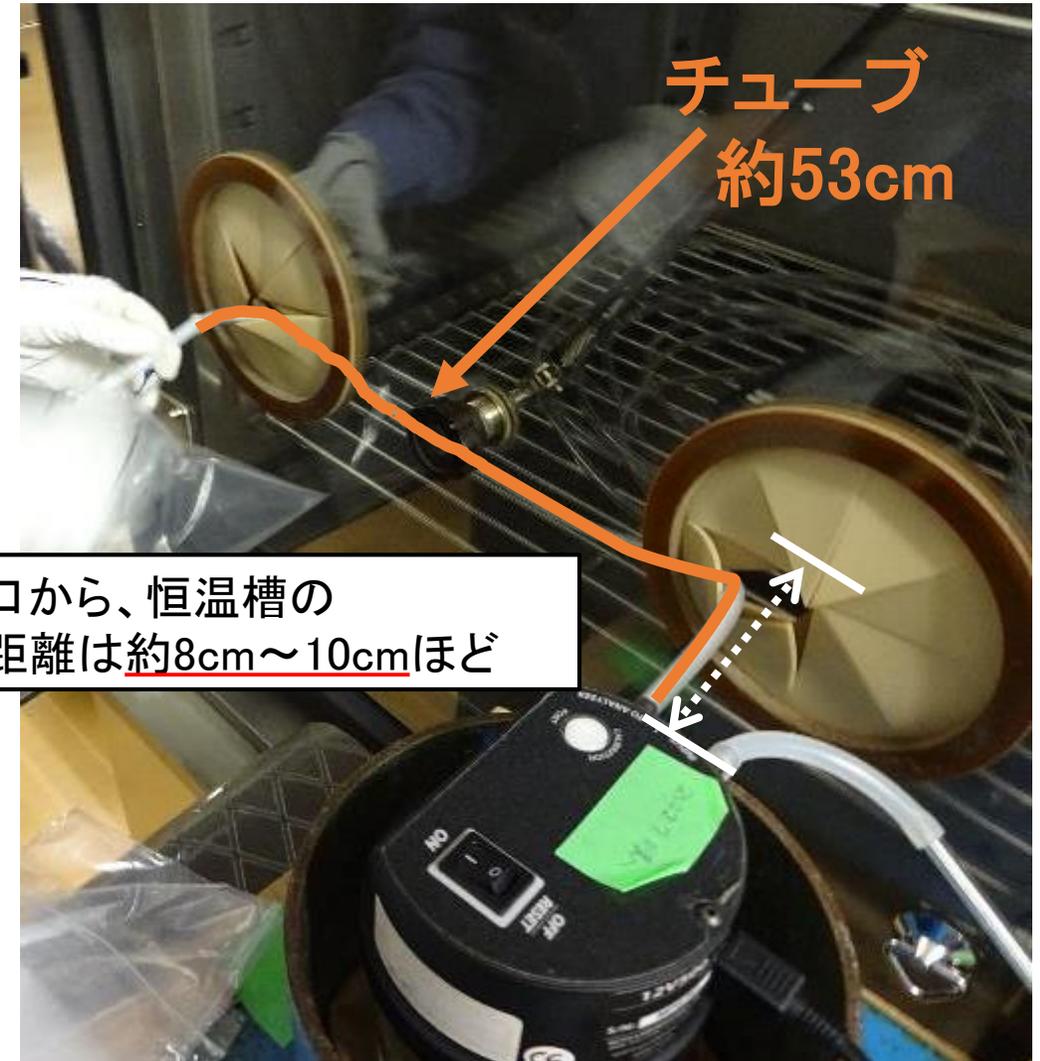
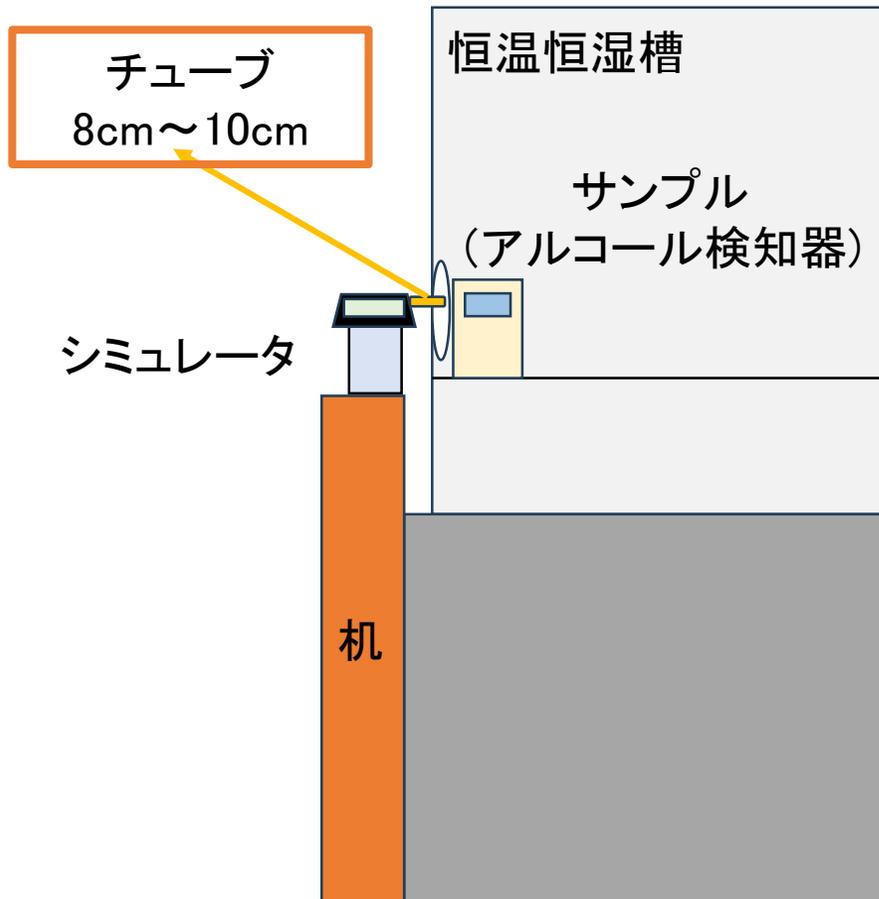
2. 干渉ガス試験について、エタノール0.15mg/Lが存在する中で、各干渉ガスを通気する試験ができるか

- ・ 9月25日に試験計画提示
- ・ 10月10日に試験実施
 - 結果アセトンが全く出てきていないことが判明(水に全て溶ける)

CERI様温度試験条件

「6.6.4 温度の影響」試験風景 恒温槽周囲の写真
エスペック(株)製 恒温恒湿槽 PSL-2J

「6.6.4 温度の影響」試験 試験風景イメージ図



4. 参考

リボンヒーターを巻かずに室温でフローさせた場合

フロー前



フロー後(結露)



2. 評価方法

リボンヒーターなし



リボンヒーターあり(2重巻き)



10cm



53cm

規格WGについて

干渉ガス試験 (アセトン)

2. 検証内容

○呼気シミュレータに所定の溶液(純水または発生ガス濃度 0.15 mg/L エタノール水溶液)を入れ、200 ppm アセトン標準ガスを所定流量で所定時間通気し、呼気採取袋に捕集する。捕集したガスのアセトン濃度をガス検知管で測定し、通気前と通気後の濃度の違いを確認する。

○検証条件は以下の通り。各条件 n=2 測定する。シミュレータは流量毎に使い分ける。

溶液	通気ガス	条件	流量 [L/min]	捕集時間 [sec]	シミュレータ SN
超純水	純空気	①	5	24	MP5143
		②	12	10	MP6750
		③	20	6	MP6751
	アセトン	④	5	24	MP5143
		⑤	12	10	MP6750
		⑥	20	6	MP6751
0.15 mg/L エタノール	純空気	⑦	5	24	MP5143
		⑧	12	10	MP6750
		⑨	20	6	MP6751
	アセトン	⑩	5	24	MP5143
		⑪	12	10	MP6750
		⑫	20	6	MP6751

※捕集時間は捕集量が 2 L になる時間を算出した。(呼気採取袋に入りきる量)

規格WGについて

干渉ガス試験 (アセトン)(続き)

条件④ (100 mL)	
1回目 [ppm]	2回目 [ppm]
<50	実施せず
条件⑤(100 mL)	
1回目 [ppm]	2回目 [ppm]
<50	実施せず
条件⑥(100 mL)	
1回目 [ppm]	2回目 [ppm]
<50	実施せず



写真②：ガス採取の様子(検知管先端拡大)

捕集量 100 mL では検知管が反応しなかった。

→捕集量が少ない可能性が十分考えられるため、捕集量を 200 mL に増やして実施した。

(⑥の 1 回目実施後に捕集量を 200mL にすべきと気づいた。結果が「実施せず」となっているものは検知管の残数の都合で実施できなかったことが理由である。)

※呼気シミュレータを介さずに、アセトンガスをそのまま袋に捕集したものを検知管で測定した。

→結果は指示値 200 ppm を示した。

規格WGについて

干渉ガス試験(アセトン)(続き)

→ アメリカNHTSAのFederal Register(右文献)に、
(Vol.58, No.179, p.48707, 1993)

エタノールシミュレーターに直接アセトンを
滴下して行う試験あり

→ 本試験をCERI様で確認 → 12月15日実施

4.2 Test 2. Acetone Interference.
Test at 0.020 BAC with the specified amount of acetone added to the CU solution.³ Replace the solution if acetone depletion is indicated during the test. [SE \leq \pm 0.005 BAC; SD \leq 0.0042]
Test 2.1: 70 microliters acetone per 500 ml solution.
Test 2.2: 115 microliters acetone per 500 ml solution.

表 1. アルコール濃度測定器 (YAL-804N、ヤナコ計測製) による測定結果

実施年月日：2023年12月15日

条件	シミュレータ溶液	設定流量 [L/min]	指示値 [mg/L]	
			1回目	2回目
1	超純水	12	0.020	0.019
2	0.5 mg/L アセトン	5	0.114	0.112
3		12	0.103	0.103
4		20	0.098	0.097
5	0.15 mg/L エタノール	5	0.174	0.173
6		12	0.171	0.170
7		20	0.168	0.170
8	0.15 mg/L エタノール +	5	0.266	0.264
9		12	0.258	0.256
10		20	0.249	0.249

表 2. アセトン用ガス検知管 (102SD、光明理化学工業製) による測定結果

実施年月日：2023年10月6日 (条件5、条件6、条件7)

2023年12月15日 (上記以外の条件)

条件	シミュレータ溶液	設定流量 [L/min]	測定値 [ppm]	
			1回目	2回目
1	超純水	12	<20	<20
2	0.5 mg/L アセトン	5	220	200
3		12	210	210
4		20	200	200
5	0.15 mg/L エタノール	5	60	48
6		12	48	48
7		20	40	48
8	0.15 mg/L エタノール +	5	380	380
9		12	300	300
10		20	300	280

規格WGについて

・1月12日 JB20見積連絡あり 以下税抜き表示(2月6日現在)

事前書類審査 3.5万円、現地審査 12.5万円、試験報告書 3万円、交通費 各申請企業様毎 …19万円+交通費

6.5.2 基本的な精度試験 46.2万円, 6.5.3 ドリフト試験の実施 25.6万円, 6.6.2 高濃度暴露試験 8.7万円,

6.6.3 呼気結露影響試験 15.3万円, 6.6.4 温度の影響 22.1万円,

6.6.5 呼気アルコール検知器の干渉物質試験 23.2万円, 6.6.6.1 最小体積の試験 2.3万円,

6.6.6.2 呼気中の体積及び時間の影響 8.3万円, 6.6.7 電源継続時間試験 9.9万円, 6.7.2 自由落下 9.1万円,

6.7.3.1 低温 7.2万円, 6.7.3.2 高温 7.2万円, 6.7.3.3 温湿度サイクル 10.0万円 …198.3万円

6.8.1 静電放電

1)CERI様が第3者機関へ妨害試験を依頼、妨害後にガス試験を実施

8.9万円+第3者機関での試験料金実費(第3者機関の料金は変動があるので都度料金を確認し御見積書を申請企業様へ提出)

2)申請企業が第3者機関で妨害試験を実施しCERI様に報告書を提出、CERI様へ機器を返送しガス試験を実施

6.9万円

6.8.2 放射電界へのイミュニティ

1)CERI様が第3者機関へ妨害試験を依頼

3万円+第3者機関での試験料金実費…**両方1)の場合 226万円+交通費、第3者機関での試験料金実費**

2) 申請企業が第3者機関で妨害試験を実施しCERIが報告書を確認

1万円…**両方2)の場合 222万円+交通費、申請企業様と第3者機関とでの試験料金実費**

3)申請企業が取得済みの第3者機関の報告書をCERI様に提出

0.5万円…**3)の場合 214.6万円+交通費**

規格WGについて

・1月12日 見積と共に下記質問事項あり

①基本的な精度試験

試験結果を他の全ての試験の負荷等かける前のデータとしたいと考えておりますが、不可となる試験項目はございますでしょうか→JB20は精度試験をパスした機器で他の試験を行うため不可はない

②基本的な精度試験

濃度毎の測定で、2日にわたっての測定でよろしいでしょうか→問題ない
(例 3台と4台ではなく、濃度毎で7台を1日目0.00+0.10、2日目0.15+0.20を評価する)

③恒温恒湿装置の記録

一部試験条件で湿度の測定が機能していないのではとの指摘がトライアルでありました
小型の温湿度計を槽内にいれ記録をとるとの話になりましたが、データ取得は1分刻みでよろしいでしょうか→問題ない
恒温槽の湿度設定はいくつにすればよいでしょうか→温度試験のため、CERI様が設定できる最低湿度・・・確認中

④干渉ガス試験

報告書欄の「妨害物質濃度」は何を記載すればよいのでしょうか→干渉ガスの実際のガス濃度(調整濃度)を記載

⑤最小体積の試験

0.15mg/L濃度は基準器の測定は不要でDubowski理論濃度だけで十分でしょうか(高濃度暴露1.00mg/Lのイメージ)
→同試験は反応するか否かの試験なので、ブランク(水)で問題ない

⑥呼気中の体積及び時間の影響

検知器の表示が「エラー」の場合、申請企業への確認等は不要で、即不合格であり報告書にErrorと記載との認識でよろしいでしょうか→本件は、エラーが出ないように、事前に様式8にて申請者が流量を提示するので、「エラー」は出ないため、出た場合は即不合格

規格WGについて

・1月12日 見積と共に下記質問事項あり(続き)

⑦6.6及び6.7の各種試験

温度等負荷や妨害後のガス試験で実施までの時間を開けてはいけない試験はありますでしょうか

程度の問題もあるならば個々について明確にしたいです→6.6.4温度試験はその時の温度、6.7以降の各妨害試験は直後でなくて良い

⑧静電放電とイミュニティに関する第3者機関からの報告書

専門的な記載内容を正確に理解することは非常に困難だと考えております。

そのため下記の例のような一文のみを確認するにとどめることとできればと考えております

例「JB20 6.8.1静電放電に準拠した妨害試験を実施した」

イミュニティ試験についてすでにデータ取得済みの場合には、

申請企業が取得した第3者機関からのレポートが「外部機関へ提出したレポートは

JB20 6.8.2イミュニティ試験に準拠し試験実施した結果合格となったものである」といった宣誓書のようなものの提出を想定しております

どうしても試験実施の手配からCERIIに依頼をしたい場合には、当機構もそれなりの勉強を行うため手数料だけでも前述のような高額のコストとなります。これらの前提でのお見積りですので対応する内容が変われば料金は変わります

→外部機関の合否確認のみ(外部機関には事前に試験内容等を周知)

⑨初回試験時の試験実施項目

全項目を実施であり、不合格項目がでた時点での途中中止はないとの認識でよろしいでしょうか→中止はない

⑩不合格後の再試験について

7台を再抜き取り→基本的な精度試験7台→不合格となった項目のみ再試験との認識でよろしいでしょうか

→精度試験に合格した機器は、次の試験を行ってよい。一方で、精度試験項目として7台全数合格は必須

規格WGについて

・1月12日 見積と共に下記質問事項あり(続き)

⑪6.4.2参照条件

「空気(但しCO₂ 5%干渉影響がない場合)」こちらの記載は消えますか？

このままだと基本的な精度試験実施後に行う干渉ガス試験でCO₂が不合格だった場合には、実施済みの基本的な精度試験も不成立ともとられかねないです→「**空気または、呼気相当のガスとする。**」とする

⑫干渉ガス試験

JB20ではエタノール+アセトンを5回は導入しないとならないので、単純計算で5回導入の間にも約5%濃度低下することになります。そのため、上記の濃度低下のデータからも公称値±*%の記載については、アセトンについては記載方法の検討を希望いたします→**干渉ガスの濃度の公称値を±10%とする**

- ⑬このお見積りについてですが、設備のイニシャルコストとが含まれておりません。ご相談なのですが、イニシャルコストをJ-BAC様でご負担いただくことはできないでしょうか。そのように申しますのも、JB20は依頼件数がかかなり限られると考えております。算出の際には5年で依頼**件と考え算出するのですが、念のため依頼件数を少な目に見積もるとどうしても試験料金に加算する金額が大きくなってしまいます
→**毎年度J-BACの技術委員会の予算として、設備費、校正費を負担していく対応**

-以下はJ-BACより-

- ⑭以前CERI様の方で更新審査等との重なりを危惧されておりましたが、今年度中でしたら、いつまでにスタートであれば問題ありませんでしょうか
→**JB20の申請数とか見えないため、基本JB10を優先で進めることであれば、キックオフはいつでもよい(4月でも)**

規格WGについて

今後について

- JB20001
 - 2024年4月前には運用開始へ
 - JB10更新審査、維持審査との重なり等は考慮の必要なし。下記2点を
 - CERI様からの最終見積入手
 - 2月6日現在の見積もりは入手。そこより±費用変更有
 - 懸案事項解消及び規格文書、報告書修正(CERI様要請)
 - ・・・規格WG残務
 - 終了後解散へ

以下は、別WG等にて対応

- JB10001
 - NDIR仕様に対する規格対応、都度の規格修正検討等
- JIS・ISO化
 - 他機関の調査検討

規格WGについて

JB10002改版 (JB10003)対応

2024年2月1日からJB10003-2024へ改版されました。

検定制度、別冊、様式がすべて改版されておりますので、申請の際は協議会ホームページよりダウンロードして、記入後、提出願います。過去の様式を使用した申請は受付（もしくは受理）出来ませんので、ご注意願います。

定義付けは出来ていたが、明確に記載されていない事項があり、申請に対しての確認が取りやすくなりましたので、改めてご一読願います。また、実際に申請される企業様はきちんと読み込んでいただきたく宜しくお願いいたします。

アルコールガスのトレーサビリティ調査

○ ドライボンベガスとシミュレーター(ウェットガス)の相関関係調査

参加メンバー

光明理化学: 畑様

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

フィガロ技研: 河口様

根本特殊化学: 三浦

ヤナコ計測: 上西様(リーダー → 本年度から暫定で三浦へ変更)

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様

【課題事項】

- ・ウェットガスとドライガスの相関の確認方法の検討
- ・試験実施に向け試験を行っていただける企業の募集
- ・試験対応の為ドライガスの提供方法の検討

改めて、本試験にご参加していただける企業様を募りますので、その際は是非ともご協力願います。

アルコールガスのトレーサビリティ調査

○ ドライボンベガスとシミュレーター(ウェットガス)の相関関係調査

産業技術総合研究所 物質計測標準研究部門
加湿・多種混合VOC標準ガス発生器のご紹介

2024年1月11日に産総研を訪問し、上記発生器の説明を受け、今後に関して打合せを実施しました。

加湿標準ガス発生器 & センサ応答評価

- 生体ガス等、実試料と同様な組成の揮発性有機化合物(VOC)標準ガスを発生
- 0~100%RH加湿条件下で、ppm~sub ppbのVOCに対するセンサ感度を評価
- 湿度によるセンサ感度の低下・共存成分による妨害を、定量的に評価

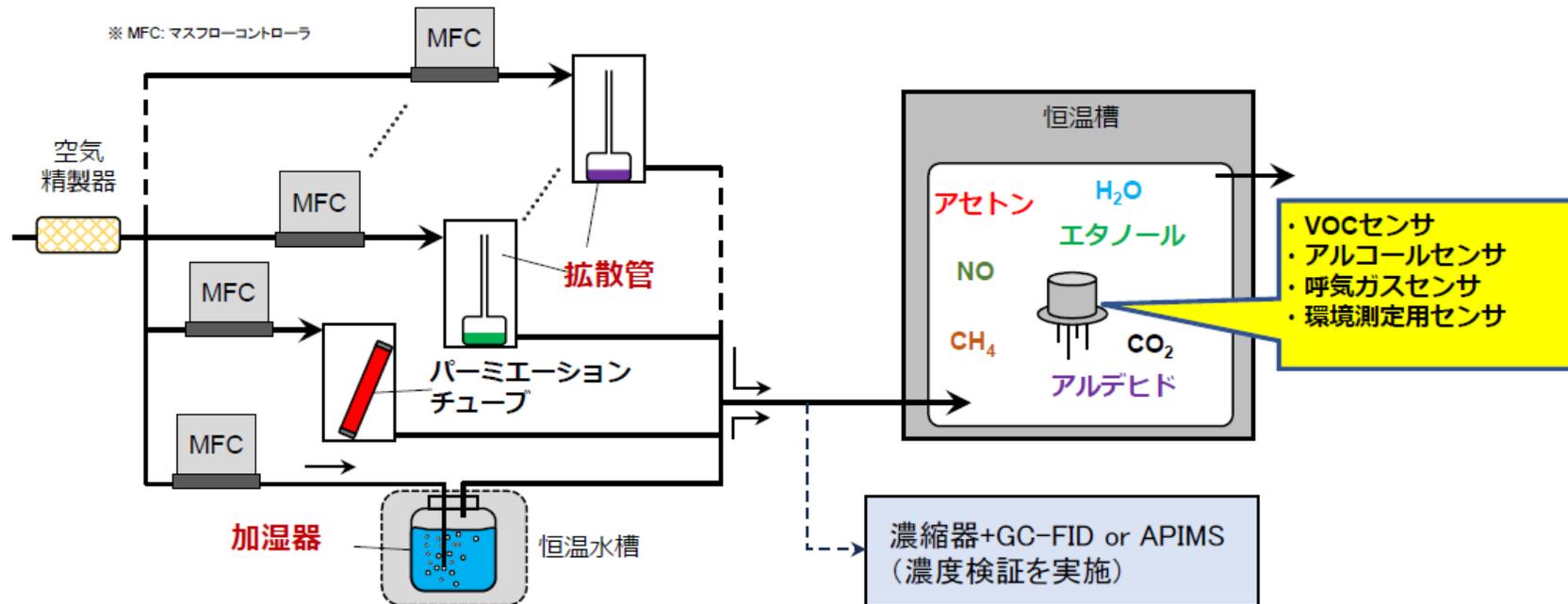
アルコールガスのトレーサビリティ調査

○ ドライボンベガスとシミュレーター(ウェットガス)の相関関係調査

研究目的・内容

生体ガスセンサや室内環境・工業用等のガスセンサは、湿度を含む多様な成分共存下で目的成分の検出・定量に利用されています。多くのセンサは湿度等による感度変化が懸念され、正確な定量には湿度等の影響を評価する必要があります。しかし、評価に必要な加湿標準ガス発生器や評価装置がありません。

この問題を解決するために、0~100%RHの任意の湿度で加湿でき、更にppm~sub ppbのVOC成分を発生できる標準ガス発生器を開発しています。現在までに、アセトン・ブタン・酢酸について加湿・空気希釈条件下でsub ppbまで発生できることを検証しています。



その他

- 問い合わせ事項の対応は随時実施中
業務委員会 Web/IT班と連携
申請に関する対応(ワークフロー作成)を検討中
- 認定品の調査検討
業務委員会 調査班と連携
認定品が正しく販売されているか調査対象を検討
来年度以降の更新審査に対する対応を検討
- 質疑応答

今後の取り組みについて

1. 外部検定の運用の監視
2. JB10003 JB20001の対応
3. アルコールガスのトレーサビリティ調査の推進
4. 業務委員会様と連携
5. 2024年度以降の活動計画立案
6. その他HP等からの技術的相談対応

まとめ

2023年12月より白ナンバーの検知器での検査義務が始まりました。
更に認定品の期待と需要が高まっております。
それに伴い、認定品にて問題が若干ですが生じており、問合せ等がきております。
認定品としての社会的認知度に問題が生じますので、今後も皆様のご協力宜しくお願いいたします。